

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人 十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム笑みの里 富士山ユニット		
所在地	御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	平成31年2月21日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2291200059-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中は玄関の施錠をせず、過度な行動抑制をせずに、ご利用者様の気のおもむくままに行動して頂き人としての尊厳を大切にすることを第一に優先するとともに、ご利用者様が転倒や怪我や行方不明などにならぬように、職員は日々細心の注意をもって支援にあたっています。食事は1日3食を施設内でご利用者様同士が助け合って調理し、職員は出来ない所だけをサポートすることで、できる事は自分で行える喜びを感じて頂くとともに、日々充実した生活を送っていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近所に住む人が事業所の畑を気にかけてくれ「水はいついつ」と声も手もかけてくださり、見事な収穫が叶っています。その野菜を使ったり、料理本を見たり、本人の得意料理でメニューを決めるほか、毎月『かわりご飯の日』『お赤飯の日』『お寿司の日』を定めて食事の楽しみを増やしています。また利用者も包丁を使って調理に加わり、「高齢者のクッキングスタジオがあったらこんな感じ？」と目を疑う光景が広がっています。職員が教えてもらう方向で味付けをお願いする等繰り返す中で、「利用者に教わって煮つけができるようになった」という職員もいます。本人の隠された「できる」を掘り起せたことが職員の働き甲斐にもなっている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に出勤職員全員で理念を復唱することで共有と実践に繋げている。	職員会議では理念の内容について質問を投げかける等して意識の継続を図り、「何かケアに行き詰まったとき、理念に基づいて動く」ということを職員にも周知して、理念の忠実な実践は「行動抑制をしない」「自尊心を尊重する」につながっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近隣へと散歩に出かけ、近所の方などに挨拶を交わしている。 また毎日の買い物では、ご利用者の知り合いに会ったり、お店の方とも馴染みの関係ができています。 地域の年行事に参加させて頂いている。	スーパーマーケットは2箇所を使い分け、レジ担当とは挨拶を交わす間柄となり、必要備品の購入でホームセンターや本人の化粧品の買い物等、細目に地域へ出掛けています。どんど焼きをはじめ行事には欠かさず参加し、小・中の福祉教育、職業体験も受入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へと参加するとともに、日課の散歩や毎日の買い物を通じて、地域住民の方と接しながら支援風景を見て頂く機会を設け、理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ご利用者ご家族2名、民生委員の方、包括支援センターの方に参加依頼をかけ、PowerPointなどを活用し生活の様子や行事の様子を報告している。会議であがった意見は職員会議の場にて職員に報告し、改善案などを検討している。	運営推進会議には「各ユニット1名ずつ順次家族の出席を～」として土曜日開催で隔月実施しています。パワーポイントを使ってメンバーが目で見たりしやすいことにも配慮し、自宅で介護をする民生委員は自身の経験談を話していただきます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やサービス提供事業所意見交換会などに参加し施設の実情を伝えるとともに、市の見守りネットワークへと登録し、行方不明者の捜索などにも協力をしています。	管理者は認知症サポーター養成の講師ができるため、御殿場市からは毎月のように要請を受け、ボランティアで協力をしています。また『見守りネットワーク』でも実際に探索に加わり、事業所としてできることは尽力していく考えです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、車椅子での拘束帯などはせず、自由に生活できるよう配慮しています。 また2~3ヶ月に一度身体拘束における内部研修を開催し、職員全体で拘束ゼロに向けた取り組みを検討している。	法改正に基づき本件に係る指針を作成し、身体拘束適正化検討委員会を設置したうえで、委員会開催の4回も終わっています。また身体拘束ゼロ宣言を改めておこない、身体拘束廃止フォーラムにも出席して学びを深めています。	本年の法改正における取組むべき点は終わっていますが、より適正な記録を残すよう、年度末までに書類を整備することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、虐待に対する理解と防止について学び、日々の業務中も職員が相互に注意し合うなどしながら業務にあたっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じて日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を設けて必要性は理解しているが、活用できるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に介護保険改定の際に生じる利用料金の変更やリスクマネジメントに関する内容は、利用者・家族の方に十分に理解し納得がいただけるよう、丁寧に説明をしています。また不明な点は気軽に問い合わせいただけるようお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の変化は細目にご家族へお伝えし、面会に来られた際は、ご家族、ご利用者が意見を言いやすい雰囲気作り配慮しています。また玄関には苦情受付箱を設置している。	面会が年に数回という家族には隔月発行の『笑み里だより』で状況がより伝わるようにし、また来訪が頻繁な家族は意見も言って下さり、例えば利用者が2階の居室と1階のリビングを勢いよく昇り降りする姿をみて、心配との進言となり階段の途中に椅子を置くことにしたこともあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて職員の意見・提案を聞き、全員で検討して反映させています。	着任の新管理者よりも大半の職員が年上ということもあって「あれしてください」「これはね…」といった指導的なことは未だできてはいませんが、気になれば声をかけ、また会議で発言がない職員がいればふるようにしており、和を大切に関わるように気遣っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を遵守していきながら、ワークライフバランスが崩れないよう勤務など組んでいます。また育児休業規則を制定し運用しながら、各自が意欲的に働けるよう順次見直しを予定しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス基準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、能力に応じた専門知識、技術向上が図れる様、外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の開催する意見交換会などに参加や「注文を間違える料理店」への参加などを通じて、サービスの質の向上を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所したばかりの時期には、ご家族に頻回に面会にきてもらったり、職員はご利用者様の声に耳を傾け、安心して生活できる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用の際には、ご家族の不安・要望などにしっかりと耳を傾け、ご利用者とともに安心して頂けるよう努め、ご利用者の日々の様子は細目に伝えるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の段階でご家族・ご利用者からしっかりと情報収集を行い、ご利用者の抱える課題や認知症状を明確にし、必要な支援ができるよう準備しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員は一緒に掃除をしたり、一緒に食事を摂ったり、一緒にレクリエーションをしたりしながら、その中でさりげない支援ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡をとりながら、ご利用者にとって必要な場合にはご家族に面会にきていただくなどして共に支えて行く関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者にとって馴染みの人(子供や配偶者)が定期的に面会に来られたり、昔行ったことあるお店で買い物をしたりと馴染みの人や場との関係が継続するよう努めています。	家族の送迎で馴染みの美容院に通う人や、在宅の頃通っていた認知症カフェに今も毎月出掛けていく人、好みのインスタント珈琲を自分でつくる人、編み物の趣味を続ける人等、平均介護度2.3とあって多彩な継続支援が叶っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の有する能力に応じた役割をもってもらい、利用者同士が関わり合い、支え合える様に心がけているが、些細な事での口論はどうしても起きてしまっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから特養へ移行された方に対し、職員が現ご利用者をお連れして面会にいたりしてグループホームでできた関係性を大事にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や日常の言動や表情から、ご利用者の思い、希望をくみ取れる様努めています。	携帯で家族とメールのやりとりをする人、食事の途中でメモ帳を取だし献立を記録する人、MYノートに兄弟姉妹の氏名を書き込んで持ち歩き、仲良くなれそうな人には見せる人と、介護度1の利用者が半数という数字が十分伝わる様子で、大半が意向をはっきり述べています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所してからもご利用者、ご家族、関係事業所から情報収集を行い、その人らしい生活、馴染みの暮らし方に近づけられる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションや調理、入浴を通じて利用者個々の能力を見極め、有する能力に応じた役割をもって頂くとともに、心身状態の変化は職員間で共有・把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議などご利用者の課題などを出し合い、皆で検討し、介護計画に反映している。	入居間もなくは『24時間シート』をつけ生活リズムを掴んだうえで介護計画書を仮作成し、1ヶ月後再作成しています。『施設サービス計画書モニタリング表』へサービス内容の実績をつけ、オリジナルの『介護計画書』には課題に基づく具体的な援助内容を居室担当者が記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々の生活記録を記入し、特記事項や気づきを記入し職員間で共有しながら実践し、職員会議などで介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望者は個別の訪問マッサージを利用したり、当施設の訪問歯科以外の外部の歯科に受診したりとその時々生まれるニーズに対し、柔軟に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ毎日買い出しに出かけたり、季節の地域行事(お祭やどんど焼きなど)に参加して地域住民の方と交流できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診以外にも、入所前から通われているかかりつけ医へ受診希望があれば受診できるように支援しています。	月2回訪問診療をおこなう協力医に17名が変更されていて、診療の立ち合いはその日の日勤がおこない、『業務日誌』に記録を残しています。また専門医については家族に付き添いをお願いし、『病院受診の経過報告』というシートに記載のうえ、双方情報共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身状況に常に気を配り、変化が見られた際には同法人内の看護師に報告をするとともに、協力医の往診の際にも相談できるように、記録する様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際には、協力医の看護師やMSWと連絡を密に取り合い早期の退院支援に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者が重度化された時や、またその可能性が見えてきた際には、利用者・家族の不安を極力軽減できるよう話し合いを持ち、施設の方針、ご利用者・ご家族の意向を確認しています。	母体である特別養護老人ホームから異動してきた職員もいますが、ほとんどは看取りが未経験です。メゾネット2ユニットとしたときから「自立度が高まって自宅に帰る」ことを目指して(3名の実績あり)いるも、ゆくゆくは現実となることとして外部研修にも積極的に参加しています。	母体施設には常時看護師がいるため、介護士向けの仕様書や指導がさほど求められていないと思われるため、看取りにおいて実績がある地域の事業所への実施訓練や見学訪問の機会をつくっていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や内部研修に参加はするが、実際に起きた時に実践力があるとは言えません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低でも年2回は防災訓練を行い、全職員が災害時の避難方法の把握に努めております。	法定訓練2回の内1回は消防署の立ち合いを求め、物干しざおとタオルケットでつくる簡易担架や消火方法等、実践的に指導を受けています。非常食を22人分を1日3食、5日分常時保管し、今月10日のかわりご飯の日には消費期限の迫るアルファ米の防災試食会を予定しています。	面会も多いこともあり、自宅にいる家族と伝言ダイヤル(171)を通じて、防災訓練が実施できたら、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念でもある「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」の理念のもと、言葉遣い、言葉掛けなどに十分注意しています。また職員同士で言葉かけの仕方のついて注意しあいながら取り組んでいます。	「私ばかりやらさせる」という利用者の為に、食器洗いの担当表を作ったものの、実際は当人が他の当番日にやってしまうことがしばしばです。そんな光景が日常茶飯事ですが一人ひとりの意向を聴き、本人の想いを代弁するなどしていきかいが起きないよう気遣っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロックはせず、ご利用者の行動や表情に隠された思いを読み取る努力をして、ご利用者をご自分の思いを出せるような雰囲気作り配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば入浴など、ご利用者が入りたい時間に入れるよう支援したり、お買い物に出たい時は、可能な限り職員と一緒に買い物に行けるよう、希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には十分気をつけるようにしています。またおしゃれに関しても、言葉かけを忘れない様に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分で作った物を食べれる喜び、達成感を味わえる様、調理時には職員の見守りの元、積極的に調理に参加していただけるように支援しています。	料理本を見たり、本人の得意料理でメニューを決めるほか、毎月『かわりご飯の日』『お赤飯の日』『お寿司の日』を定めてお楽しみを増やしています。利用者も包丁を使って調理に加わり、「高齢者のクッキングスタジオがあったらこんな感じ？」と目を疑う光景が広がっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分の摂取量をチェック記入し、その方に適した形態にて摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は毎食後、口腔ケアを行って頂き、介助が必要な方は職員が介助して行っています。また週1回、訪問歯科診療で歯科医師または歯科衛生士による口腔ケア、義歯調整などが受けられる様に支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄のサインを把握し、時間で誘導したり、サインにより適宜誘導し、失敗ののないように努力しています。	自立に近いからこそ、布パンにするのは本人が心配となることも間々あり、事業所では「自立を」「向上を」と無理強いせず、本人本位としています。便秘対策にはもち麦、寒天、オクラ茶、おから、ヨーグルト、オリーブオイルetc.食材でのお試し改善に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	もち麦、寒天、オクラ茶などの摂取で工夫したり、天気の良い日には散歩にでて運動をして、なるべく自然排便が行える様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日ごとのパターンは決まっているが、それ以外でも、ご利用者が希望する日、時間があれば、柔軟に対応できる体制を作っています。	週3日を目安としていますが、自立の人は「入ってもいい？」と職員に確認はあるものの、ほぼ自由に入浴しています。3面から脚を入れることができ入りやすそうな浴槽ですが、またげないとすれば2人介助で対応し、湯に浸かる喜びを味わってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の希望や心身状況に常に気を配り、休息時間を設けられるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員がいつでも確認できる状態にして目的や副作用、用法や用量が理解できるように努め、薬の変更、追加があった時は職員間で連絡し合い状態の経過観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から趣味や楽しみ事を把握し、希望があるご利用者のタイミングで行える様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人から希望があれば趣味や嗜好品の買い出しに同行したり、普段は行けない様な場所も、ご家族にご協力いただきながら外出できるように支援しています。	さくらんぼとフットワーク狩りに山梨まで足を延ばすのは恒例となり、県内では花見や莓狩り、紅葉狩りと、フットワークのよい外出支援が叶っています。2名の利用者が順次交替で、毎日買い出しのミニドライブが実施されるほか、気分が乗ればファミリーレストランで甘味を堪能する『おやつ外出』もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、日常の中でご利用者から買いたい物の申し出があった際は、一緒に買いに出かけ、可能な時は支払いもして頂いています。またご家族の許可のもと数千円をご自分で所持している方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から希望があれば電話をかけれるよう支援したり、手紙、ハガキなども書けるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓・室内の温度・湿度の管理に気を配り、ご利用者様が作った作品や生花などを飾ることで、のんびりとくつろげる空間作りにも努めています。	換気扇に使い捨てシートが貼られていたり、トイレにはお洒落な目隠しカーテンがある等、諸所職員の気配りが発見できる共用空間です。利用者同士寛いだり、面会の家族と談笑するスペースが2階には在り、大振りの応接セットでゆったり過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長ソファを設置して気の合う仲間と談笑ができた、一人になりたい時は居室へご案内するなどの支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安心して過ごせて頂けるよう、自宅を使い慣れた家具やテレビ等があれば可能な限りご持参して頂くようご家族に依頼しています。	本人がすべて転んでしまったことから、ホームセンターで購入した滑り止めシートを職員がテープで張り付けた手作りマットがある居室には、旧きよき日本の茶の間家具が置かれ、本人の生きてきた歴史なのか独特の趣きを醸し出していました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全となっており、居室やトイレには目印となる飾りや貼紙をすることで、ご利用者の考える力を維持できるような環境にしております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人 十字の園		
事業所名	御殿場十字の園 グループホーム笑みの里 羽衣ユニット		
所在地	御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	平成31年2月21日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2291200059-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中は玄関の施錠をせず、過度な行動抑制をせずに、ご利用者様の気のおもむくままに行動して頂き人としての尊厳を大切にすることを第一に優先するとともに、ご利用者様が転倒や怪我や行方不明などにならぬように、職員は日々細心の注意をもって支援にあたっています。食事は1日3食を施設内でご利用者様同士が助け合って調理し、職員は出来ない所だけをサポートすることで、できる事は自分で行える喜びを感じて頂くとともに、日々充実した生活を送っていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近所に住む人が事業所の畑を気にかけてくれ「水はいついつ」と声も手もかけてくださり、見事な収穫が叶っています。その野菜を使ったり、料理本を見たり、本人の得意料理でメニューを決めるほか、毎月『かわりご飯の日』『お赤飯の日』『お寿司の日』を定めて食事の楽しみを増やしています。また利用者も包丁を使って調理に加わり、「高齢者のクッキングスタジオがあったらこんな感じ？」と目を疑う光景が広がっています。職員が教えてもらう方向で味付けをお願いする等繰り返す中で、「利用者に教わって煮つけができるようになった」という職員もいます。本人の隠された「できる」を掘り起せたことが職員の働き甲斐にもなっている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に出勤職員全員で理念を復唱することで共有と実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近隣へと散歩に出かけ、近所の方などに挨拶を交わしている。 また毎日の買い物では、ご利用者の知り合いに会ったり、お店の方とも馴染みの関係ができています。 地域の年行事に参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へと参加するとともに、日課の散歩や毎日の買い物を通じて、地域住民の方と接しながら支援風景を見て頂く機会を設け、理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ご利用者ご家族2名、民生委員の方、包括支援センターの方に参加依頼をかけ、PowerPointなどを活用し生活の様子や行事の様子を報告している。会議であがった意見は職員会議の場にて職員に報告し、改善案などを検討している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やサービス提供事業所意見交換会などに参加し施設の実情を伝えるとともに、市の見守りネットワークへと登録し、行け不明者の検索などにも協力をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠、車椅子での拘束帯などはせず、自由に生活できるよう配慮しています。 また2～3ヶ月に一度身体拘束における内部研修を開催し、職員全体で拘束ゼロに向けた取り組みを検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、虐待に対する理解と防止について学び、日々の業務中も職員が相互に注意し合うなどしながら業務にあたっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通じて日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を設けて必要性は理解しているが、活用できるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に介護保険改定の際に生じる利用料金の変更やリスクマネジメントに関する内容は、利用者・家族の方に十分に理解し納得がいただけるよう、丁寧に説明をしています。また不明な点は気軽に問い合わせいただけるようお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の変化は細目にご家族へお伝えし、面会に来られた際は、ご家族、ご利用者が意見を言いやすい雰囲気作り配慮しています。また玄関には苦情受付箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて職員の意見・提案を聞き、全員で検討して反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を遵守していきながら、ワークライフバランスが崩れないよう勤務など組んでいます。また育児休業規則を制定し運用しながら、各自が意欲的に働けるよう順次見直しを予定しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス基準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、能力に応じた専門知識、技術向上が図れる様、外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の開催する意見交換会などに参加や「注文を間違える料理店」への参加などを通じて、サービスの質の向上を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所したばかりの時期には、ご家族に頻回に面会にきてもらったり、職員はご利用者様の声に耳を傾け、安心して生活できる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用の際には、ご家族の不安・要望などにしっかりと耳を傾け、ご利用者とともに安心して頂けるよう努め、ご利用者の日々の様子は細目に伝えるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の段階でご家族・ご利用者からしっかりと情報収集を行い、ご利用者の抱える課題や認知症状を明確にし、必要な支援ができるよう準備しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員は一緒に掃除をしたり、一緒に食事を摂ったり、一緒にレクリエーションをしたりしながら、その中でさりげない支援ができるように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡をとりながら、ご利用者にとって必要な場合にはご家族に面会にきていただくなどして共に支えて行く関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者にとって馴染みの人(子供や配偶者)が定期的に面会に来られたり、昔行ったことあるお店で買い物をしたりと馴染みの人や場の関係が継続するよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者個々の有する能力に応じた役割をもってもらい、利用者同士が関わり合い、支え合える様に心がけているが、些細な事での口論はどうしても起きてしまっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから特養へ移行された方に対し、職員が現ご利用者をお連れして面会にいたりしてグループホームでできた関係性を大事にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴や日常の言動や表情から、ご利用者の思い、希望をくみ取れる様努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所してからもご利用者、ご家族、関係事業所から情報収集を行い、その人らしい生活、馴染みの暮らし方に近づけられる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクレーションや調理、入浴を通じて利用者個々の能力を見極め、有する能力に応じた役割をもって頂くとともに、心身状態の変化は職員間で共有・把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議などご利用者の課題などを出し合い、皆で検討し、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々の生活記録を記入し、特記事項や気づきを記入し職員間で共有しながら実践し、職員会議などで介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望者は個別の訪問マッサージを利用したり、当施設の訪問歯科以外の外部の歯科に受診したりとその時々生まれるニーズに対し、柔軟に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーへ毎日買い出しに出かけたり、季節の地域行事(お祭やどんど焼きなど)に参加して地域住民の方と交流できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診以外にも、入所前から通われているかかりつけ医へ受診希望があれば受診できるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身状況に常に気を配り、変化が見られた際には同法人内の看護師に報告をするとともに、協力医の往診の際にも相談できるように、記録する様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際には、協力医の看護師やMSWと連絡を密に取り合い早期の退院支援に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者が重度化された時や、またその可能性が見えてきた際には、利用者・家族の不安を極力軽減できるよう話し合いを持ち、施設の方針、ご利用者・ご家族の意向を確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修や内部研修に参加はするが、実際に起きた時に実践力があるとは言えません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低でも年2回は防災訓練を行い、全職員が災害時の避難方法の把握に努めております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念でもある「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」の理念のもと、言葉使い、言葉掛けなどに十分注意しています。また職員同士で言葉かけの仕方について注意しあいながら取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロックはせず、ご利用者の行動や表情に隠された思いを読み取る努力をして、ご利用者のご自分の思いを出せるような雰囲気作りには配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば入浴など、ご利用者が入りたい時間に入れるよう支援したり、お買い物に出たい時は、可能な限り職員と一緒に買い物に行けるよう、希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には十分気をつけるようにしています。またおしゃれに関しても、言葉かけを忘れない様に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自分で作った物を食べれる喜び、達成感を味わえる様、調理時には職員の見守りの元、積極的に調理に参加していただけるように支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分の摂取量をチェック記入し、その方に適した形態にて摂取できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は毎食後、口腔ケアを行って頂き、介助が必要な方は職員が介助して行っています。また週1回、訪問歯科診療で歯科医師または歯科衛生士による口腔ケア、義歯調整などが受けられる様に支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄のサインを把握し、時間で誘導したり、サインにより適宜誘導し、失敗のないように努力しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	もち麦、寒天、オクラ茶などの摂取で工夫したり、天気の良い日には散歩にでて運動をして、なるべく自然排便が行える様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日ごとのパターンは決まっているが、それ以外でも、ご利用者が希望する日、時間があれば、柔軟に対応できる体制を作っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の希望や心身状況に常に気を配り、休息時間を設けられるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員がいつでも確認できる状態にして目的や副作用、用法や用量が理解できるように努め、薬の変更、追加があった時は職員間で連絡し合い状態の経過観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から趣味や楽しみ事を把握し、希望があるご利用者のタイミングで行える様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人から希望があれば趣味や嗜好品の買い出しに同行したり、普段は行けない様な場所も、ご家族にご協力いただきながら外出できるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、日常の中でご利用者から買いたい物の申し出があった際は、一緒に買いに出かけ、可能な時は支払いもして頂いています。またご家族の許可のもと数千円をご自分で所持している方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から希望があれば電話をかけれるよう支援したり、手紙、ハガキなども書けるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓・室内の温度・湿度の管理に気を配り、ご利用者様が作った作品や生花などを飾ることで、のんびりとくつろげる空間作りに努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長ソファを設置して気の合う仲間と談笑ができたり、一人になりたい時は居室へご案内するなどの支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安心して過ごせて頂けるよう、自宅で使い慣れた家具やテレビ等があれば可能な限りご持参して頂くようご家族に依頼しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全となっており、居室やトイレには目印となる飾りや貼紙をすることで、ご利用者の考える力を維持できるような環境にしております。		